

また、もう一気にいきますけれども、せっかく点検をされたとしても、市民にはその街路灯が点検されたものか、いまだされていないのか、判断がつかないと思います。点検した場合は、何らかの方法で街路灯に表示できないものでしょうか。市民に安心感を与えるためにも、例えば設置面から1メートルほど再塗装するとか、点検済みの表示板を下げるとか、考えられませんか、お伺いします。

○議長（山根啓志君） 木村土木建築部長。

○土木建築部長（木村成弘君） まず、1つ目の建具の点検結果についてでございますけれども、これらは定期的に報告のほうをいただいております。適切に修繕しましたよというような形で報告はいただいております。

それから台帳についてですけれども、港湾の漁港にあります街灯につきましては、点検と合わせて整理をし整えたところでございます。

それから、最後に点検結果の表示についてでございます。詳細な点検を実施した際には、該当に点検済みの表示シール、こういったものを表示しまして、市民の皆様にも安心感を持っていただけるようにしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 2番 酒永議員。

○2番（酒永光志君） ありがとうございます。

このたびもですね、一斉点検の機会と捉えまして市民に対する安全・安心の取り組みを重ねてお願いしまして、以上で私の一般質問を終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、2番 酒永議員の一般質問を終わります。

次に、13番 登地靖徳議員。

○13番（登地靖徳君） 皆さん、こんにちは。私は、新市長の施政方針、これについてお伺いしたいと思います。

新市長が誕生いたしまして、初めての予算編成に明岳カラーが色濃く出ており、その中で人口減対策に積極的に取り組んでいることは、評価に値するものだと思います。人口の減少地域になると、医療や交通、教育、買い物等、生活に必要なサービスの維持が困難になり、地域の産業や雇用、あるいは講を始めとする地域社会のつながりをどうするか課題が山積してまいります。そうして住み続けることへの夢、希望、思いが消えることとなります。一般的に人口の減少は、財政収入の減に比例し、その不足を解消するために住民に費用負担を高め、サービスは悪化となることが多いものであります。このことがさらに人口の減少に拍車をかけることとなります。広島県下で本市がワーストワンから上位に値するものがたくさんあります。水道であり下水道料金、国保料金等の費用負担関連であります。さらには、人口減によりまして、空き家荒廃農地、土地の下落、一層の人口の減少、高齢化、出生率等に課題が発生してまいります。地方自治体は企業経営と共通するものがたくさんあります。それは、斜陽下降曲線に向かったものを上昇し、安定さすには不可能に近い困難が伴うと考えるが、次の2点についてお伺いいたします。

質問の1つ目でございますが、市長の人口の増加に対する熱い思いを感じるが、先般記載されました事業の遂行で実現が可能であるか、お伺いします。また、人口増加の施

策において、人が暮らしてみたいと思う要素があります。それは、先ほど述べましたものに関連しますが、市民の費用負担は少なく、受けるサービスは大きくというのはとても重要なことではないかと思えます。本市の現状がこれに合致しているかどうかお伺いします。

質問2でございますが、人は自然環境のすばらしいところで暮らしたいという思いがあります。透き通った海、澄み切った空気と緑の山々、窓辺から見える景色と夕日は生きていくことへの喜びと至福に値すると考えております。こうした環境の中で、沖美町には二百数十の別荘が誕生いたしました。この沖美町に、今、汚染土壌処理事業が始まろうとしております。漁業者や住民は、この事業の操業を歓迎しておりません。したがって市のトップである市長に操業の中止を要望しております。市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（山根啓志君） 明岳市長。

○市長（明岳周作君） 登地議員さんから施政方針につきまして、2項目の御質問をいただきました。項目別に順にお答えをさせていただきます。

まず、1項目めの人口の確保に向けた施策の実効性についてお答えをさせていただきます。

本市の人口は、もう皆様御承知のとおり、これは戦後から一貫して減少傾向にありまして、平成27年国勢調査によれば、5年前の前回調査よりも約2,700人少ない2万4,339人となっております。

人口減少の要因は、生まれてくる方よりも亡くなる方が多いこと、市内へ転入される方より、就職などを契機として市外へ転出される方が多い、このことに尽きます。

このため、施政方針では、しごとの創出、子育てしやすい環境づくり、健康寿命の延伸、この3つを重点テーマとして、施策に取り組んでいくことを申し上げたところでございます。

全国的に見ても、首都圏や政令市など、一部都市圏への人口集中が続いている中で、本市の人口減少傾向の改善を図るのは、これは容易なことではありません。

平成29年度当初予算に掲げた施策を実施すれば直ちに改善が図られるというものではないと認識をいたしております。

しかしながら、少しでも人口減少傾向の改善が図られるよう、本市の現状や財政状況などを踏まえつつ、一つ一つの事業を心を込めて実施をし、挑戦を続けてまいりたい、このように考えております。

また、市民の皆様の負担と受益の関係についてでございます。教育や医療・介護、都市基盤など、暮らしを支える機能を維持するためには、どうしても必要な負担が生じてまいります。

自治体が施策を推進するには、財源が必要であるため、人口が多く、財政基盤の豊かな都市部の自治体は、より規模の大きな行政サービスを提供することが可能でございます。しかし人口・財源に限られます本市が、これと競合し、優位性を保つのは困難である、このように考えております。

したがって、本市といたしましては、行政改革や施策の見直しにより、効率的かつ効

果的な施策の推進に努めるとともに、「しごとの創出」などによって定住人口の確保を図り、適切な負担をいただきながら、質が高く、江田島市らしい行政サービスの提供を行ってまいります。

次に、2項目めの汚染土壌処理施設事業についての御質問にお答えいたします。

午前中の片平議員さんへの答弁と重複する部分もございます。設置事業者と地域住民や漁業者の方の相互理解が進んでいない現状で、汚染土壌処理施設の本市への進出反対を求める声が数多くあるのは承知をいたしております。

さきの答弁でも申し上げましたとおり、この施設設置に係る許認可権は広島県であり、本市の考えといたしましては、市民の皆様の意見を踏まえ、平成29年1月27日付で、本市から広島県知事に対し「設置事業者へ地域の住民団体及び関係漁業協同組合に十分に説明を尽くし合意形成を図るよう指導してください。」とお願いをしているところでございます。

本市としましては、市内へ新しい事業所が開設されることは、新たな雇用を生むことでもあり歓迎すべきことであるとは思いますが、しかしながら、汚染土壌処理業につきましては、事業者と漁業者、地元住民の皆様が冷静な議論を積み重ねて相互理解が進んだ上で許認可の判断はされる必要があると、このように考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） それでは、再質問させていただきます。

質問でございますので、多少辛口になるかもわかりません。できるだけ優しく、ときには厳しく質問させていただきますので、よろしくお願いします。

かつて、この江田島市の人口を支えた職業があります。それは、皆様も御承知のように農業であり、漁業であり、お店でございます。この職種においては、親子3代が同居して、10人家族という家庭も珍しくない、たくさんあったはずでございます。そして、そのほか製造業でございますが、他にもありますが、村の鍛冶屋さん、鍛冶屋、それから豆腐、みそ、しょうゆ、そういう製造業の方もたくさんありましたが、この製造業も本当に少なくなりまして、壊滅的な状況になってきておるわけでございます。さらには、人口減少により家が建たないということで、大工、左官さん関係の業種、これも全くもう廃業に近いような休眠状態が続いております。このことがですね、今後続いてきますと、今の皆さんが年とってかかわる自営、あるいは1人だけで運営されておられますお医者さんも大変厳しいときがくるんじゃないかということが考えられます。いわゆる住民がいなくなるから空き家がふえ、荒廃農地もふえてきます。当然その結果、土地が下落し、人口はますます減少し、生産年齢適齢期の若い人がいなくなれば子供が生まれにくい。いわゆる生産人口が減るので小さい子がおらない。当然、高齢化率が上がってくるわけです。そして、先ほどにも述べましたが、医療や交通、教育、買い物等生活に必要なサービスの維持が困難になり、最後にはかつて増田寛也さんという方が本に出しております、地方消滅というような状況になる可能性を持っております。

それで、我々もいろいろ移住してきた人なんかとも深いつながり、つき合いがありまして、その方たちが先に言うのが、水道料金が安い、国保高い、これはやっぱり市を維

持するのは当然なんです、やはりよその市町の水準に課税とか負担を下げるべきではないかと思しますので、この点は一つ御検討のほどをお願いします。

そこで、私はですね、かつて商工会のどこへ三十数年勤めておったわけです。それで、300人余りの業者の方の経営とか税金とか経理とか税のそういうものにかかわってきました。特にその中で、私は経営分析がどちらか言えば得意なんです。経営診断もいろいろやってきました。江田島市の持つ、今の状態を見ますとですね、この経営診断したら大変おもしろいんじゃないかと思うんです。さっき言うた、いわゆる県下でワーストワンから上位にある状況を皆さん方はどのように考えておられるかと思いますが、これは、大変な指数なんです。こういう指数を出してはいけないんです。なぜこういう指数になったかということは、しっかりと考えてもらえば先ほどの方の質問にもつながる。要するに、生産というものが、産業が停滞して人口が減る、その結果いろんなひずみが各所に出てきておるので、しっかりとこの点を踏まえて人口がふえる政策をしっかりと打ち出してもらいたいと思います。

それで、今何点か申し上げましたが、その中で江田島市は、90億円ぐらいの余剰金持ってる。中には、江田島市は金があるんじゃないかという考え持った方もおられますが、私から言うたらこれはちょっと問題だと、やはりですね、自衛隊は企業ではないんですけれども、やっぱり資金の効率的な運用というのが要るんじゃないかと思うんです。企業によりますとね、自己資本が足らんときには他人資本、株式の発行とかあるいは借入金を起こして資本金をふやして事業を展開して利益を上げてきとるんです。金をためとるだけでは新しい展開は、私はできないと思うので、やっぱりこれを効率的に使ってもらいたい、特に行政においては、私も詳しいことはわかりませんが、1億円の自己財源出せば、数億円の事業ができるというような話を聞いております。そういうことですね、やはり明岳市長ならこのことをわかってもらえるんですが、ケインズ理論に、ケインズという人が編み出した理論があるんです。アメリカが、戦後豊かになったのは、どうもこの理論をルーズベルトさんという人が活用してアメリカ経済を上げたというんで、この90億円をためるだけでは、私は意味がないと思うんで、こういうものの活用もしっかりしてもらってですね、江田島市が魅力あるような町にしていだければありがたいと思いますが、まず、この点について答弁のほどお願いいたします。

○議長（山根啓志君） 山本総務部長。

○総務部長（山本修司君） 大変多岐にわたる御質問をいただきましたので、的確に答えられるかどうかわかりませんが、まず、90億余りございます財政調整基金などの基金のことについてのお尋ねであったかと思ます。

今回の予算編成の折にも説明をさせていただきましたように、本市でつくっております財政計画でいけば、本年度より向こう3年間は財源不足を生じるという財政推計になっております。このことは、財政計画を立てた折からわかっておったことですので、計画的に基金を積み上げさせていただき、市民の皆様の生活を守る基盤を整備するために、この基金をこれから大事に使わせていただくというふうに備えておるものでございます。

具体的には、水道事業で言いますと、第2配水池といたしまして、市全域に水をめぐり

渡らせるための配水池が老朽化しておりますので、これの更新に莫大な費用もかかりますし、これは何度もこの議場でも議論になりました海底送水管も随分老朽化しておりますので、水道事業にも多額のお金がかかります。また、午前中の林議員の御質問にございましたように、下水道事業についても大きく今後見直しをかける時期にきております。また、さらには酒永議員の御質問にもありましたように、公共施設の耐震化、こういった市民の皆様の生活を守るために必要不可欠な事業について今後多くの財源不足が見込まれておりますので、90億ある財政調整基金については、そのようなところに大事に使わせていただきたいと思いますと思っております。

また、1億円の資金があれば、それより多くの事業ができるのではないかという御質問もいただきました。この件につきましては、よく新家議員から御指摘をいただくところでございますが、1億円の真水をもって国や県からの有利な事業を探してきて、より大きな事業に転換させる、これは職員に課せられた宿題であると思っておりますので、全庁で一生懸命に汗をかきながら知恵を絞って大事な大事な1億円をより大きな事業に使えるように、今後も有利な補助事業の研究に努めてまいりたいというふうに考えております。

大変、雑駁な答弁になってしまいましたが、財政担当部長としては大事なお金を大事な市民の皆様の生活にいかに関に役に立てるように使うことができるか、このことに意を尽くして頑張っていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 島津会計管理者。

○会計管理者（島津慎二君） 先ほど、登地議員のほうから90億円の基金の運用をしたらどうかというような質問だったと思いますが、27年2月から基金について市内の金融機関において入札を行ってきました。その入札を行った結果、ここ一、二年でございますが、これまでより七、八百万の利子が多く発生しております。今後においても基本的には入札において運用していきたいと考えておりますが、今後研究を重ねながら債券の運用、債券の運用と言いましても基本的には安全で確実なものではないといけないというふうにありますので、細心の注意を払いながら運用していきたいと考えております。

以上です。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） 立派な資産運用のようでございますが、私は特にですね、もう少し、もう一步進んでもらってですね、例えば今はうちの町でもまちづくりの建物をいいものをつくってもらって感謝しとるんですが、一般的に住民の人の福祉、教育、そういうものに構築物に主に投資が向いておるような気がするんです。それは、当然重要な経費なんだけど、もう一步、江田島市のメインはこれだという何かを見つけてもらってですね、それで大きな生産性が上がる人口もふえるような政策に資金を運用してもらえば、さらによくならないかと思えます。この点は、お願いをいたしまして、次の項目にまいりたいと思えます。

先ほども片平議員から午前中に質問がありました、大矢の汚染土処理の問題でござい

ますが、関連するものはできるだけ避けてですね、違う視点からちょっと発言させていただきます。主なのはですね、市民、住民の意見、私のところにいろいろ電話がかかってきたり、話に来たりした、その人たちの意見をちょっと発表させていただきます。

まず、農業者とか漁業者がああいう設備ができれば、魚介類や農産物が売れなくなる。最悪の場合は、企業の倒産、廃業になるのではないかと深刻に考えておられます。それから江田島市が取り組んでおる民泊事業ですよ。この方たちも大変心配しております、あれができることになると、観光客とか民泊のお客が来なくなるのではないかと大変心配しておられます。

それから、市長が人口をふやすという大きな目標を持っておられますが、この移住者、Uターン者の人たちの意見です。「美しく、澄んだ空気や豊かな自然環境を求めて江田島市に来ました。ついの住みかを求めたのに、夢がなくなっていきそうです。」という言葉があります。そのほかの意見ですが、「生まれ育ったふるさと江田島市、小さい力であるが、みんなで一緒になって江田島市を盛り上げていこうと思っていたが、力が抜けました。夢も希望もなくなってきそうです。」それで、特に皆さんが心配しておられるのが、イメージが悪くなって住環境の悪化となり、人が住まなくなるのではないかと心配をされておられる方が多いです。

私の町のことを言って申しわけないんですが、過去4年間でうちの町に58世帯の方が移住あるいはUターンして来られました。その総数が141名です。その中には生まれたての小さい子から保育所、小学校の子が38名おります。保育所をつくってもらってもいいぐらいの数が、今来とるんです。それで移住してきた方の奥さんの中には、おなかの中に第2子、3子の赤ちゃんがおる方が2人もおる。この方たちも先ほどの移住者の意見と全く一緒で、ぜひこういう設備は中止してください、登地さんあなたは議員ですから、市長に特にお願いしてそういうことがないようにしてくださいという依頼が多々あるわけでございます。

それからですね、先ほど酒永議員の場面でもちょっと市長の言葉が出たんですが、本日のメインイベント、この市長さんの施政方針の書類、最後のページ、いいことが載っておるんです。まず、最後の前のページ、市長に言ってもらったほうがいいんじゃないが、やっぱり失礼やから私が代読させていただきます。「12月の所信表明でも申し上げました。施策を判断する基準についてでございます。何事かをなそうとした場合、物事には必ずさまざまな背景や事情があります。」で、裏のページ、「しかしながら、私は江田島市、そして市民にとって何が最善かという点を唯一の判断基準として議会の皆様や市民の皆様と議論を尽くし、施策を進めていきたいと考えております。場合によっては、これまでの物事の考え方や進め方を変えることが求められるかもしれません。しかしながら、それを変えることが市にとってあるいは市民の皆さんにとって最善の道であるならば、果敢に変革に取り組んでまいりますことを申し上げ新年度の予算説明とさせていただきます。」非常に、結びの言葉がすばらしいので、ただこれは御清栄の文章ではありませんよね。本心ですわね。汚染土と絡めるのも問題あるかと思うんですが、住民の皆さんが、これ汚染土本当にさっき言ったように心配されておるんです。この言葉と汚染土は関係ない言えばそれまでですが、何か関係あるんじゃないかと思うんで、一言、

市長さんの汚染土に対する、今までの流れ、経歴だけじゃなくて思いを一つお願いします。

○議長（山根啓志君） 明岳市長。

○市長（明岳周作君） 今、登地議員さんが読んでいただいたように、私の思いそのものでございます。私は正直、江田島に生まれて育ってますけども、それからしがらみがありません、正直。だからそこにありますように、思いは一つです。この江田島市をいい町にしたい。そういう思いで昨年から地元の関係者の方にも市民の皆さんにもお伝え申し上げてまいりました。そして、今読んでいただいたことは、もう私の本音といえますか、基本であります。いろんなことがあります。今までのこともあるでしょう。でも、それに根本から帰って、何が本当に市民の皆さんにとって江田島市にとって何が最善か、それを一緒に考えましょうということで今から進めていきたい。今回の汚染土処理の施設についてもそうです。私は市民の皆さんと漁協の関係の方々にも申し上げたのは、冷静に考えてください。本当に今、市民の方が心配されておられることは、騒げば騒ぐほど喜ばれるのはマスコミの方なんです。ここは本当に、私申し上げてまいりました。こうやって江田島市内の市民、事業者の方が、市民です、同じ市民の方がこうやってもめるといことは本当に情けない、悲しいことだと思います。ですから、そこらがお互いが相手の立場も尊重しながら話し合いをする、そこで妥協点を見つけていく、そのことがこの江田島市にとってよりよい町になってくるんだと思います。だから、本当に今すぐ、私はこう思います、ということではなくてですね、本当に宮沢賢治さんの雨ニモマケズの言葉の中にですね、けんかや訴訟はつまらんからやめろという、この言葉あります。昔からこういったことが発展すると、すぐけんかとか訴訟につながるんです。ですから、私は改めて申し上げますけども、お互いの立場を理解し合いながら冷静に話し合いを進めて結論を見出していきたい、このように思っています。今のこの状態では、私も行政の経験で、即座に県もですね、許可をするというのはなかなか難しいのではないかというふうに考えております。しかしながら、江田島市で新たな事業をやるというたら、必ず住民の人が反対するということになると、今から新しい事業を江田島でやってください、企業に進出してください、といっても事業者の方は腰が引けます。江田島いつたらすぐ住民の方が反対するげな、とそういうことを私は外には知らせたくない。そういう思いなんで、ぜひ市民の皆さんにも冷静に御判断をいただきたい、このように思っております。

○議長（山根啓志君） 13番 登地議員。

○13番（登地靖徳君） この問題ほどですね、この事業を進めようという方たちの考えと反対する人の立場の考えが真反対、どういう反対かいうと、私が説明しなくてもいいんですが、この事業がきたら新しい事業が江田島市にできる、雇用も起きる、税収の増加にもつながる、というような考え方で、事業が産業いうかそういうものに進出することによる利点を強調されます。ところが、反対の立場は、いやいやそがなものは要らんのじゃ、それでイメージが江田島市が悪くなったら、先ほどいっぱい述べましたが、全く悪くなって人間がおらんようになる、だからこの事業はやめてもらいたいんじゃないかと、特によそから来られた移住者の方なんか、しもうた、というような残念に思いよるんで

す。だからせっかく市長が人をふやそう意欲にあるんですから、来られた方、これから来ようかという人たちにですね、失望を与えないほうが最善ではないかと思うんです。この両者をまとめるのは、私は市長しかおらんと思うので、時間かかると思いますが、ぜひお願いいたします。

終わります。

○議長（山根啓志君） 以上で、13番 登地議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩します。

14時15分まで休憩いたします。

（休憩 14時00分）

（再開 14時15分）

○議長（山根啓志君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

1番 平川博之議員。

○1番（平川博之君） 皆様こんにちは。

1番議員、公明党の平川博之でございます。それでは、通告に従い、質問いたします。

その前に、最初に先週ですが、多くの人命と日常を一瞬にして奪った東日本大震災から6年が経過いたしました。改めて、亡くなられた方々の御冥福を祈るとともに、今なお、避難生活を続けている方々に心からお見舞い申し上げます。

先週も本市では、防災講演の開催があったところで、ふだんから防災についての意識づけが非常に大切だと感じたところであります。この定例会の初日に、市長施政方針でも、災害に強く安心して暮らせる町をテーマにさまざまな事業を取り組んでいますが、再度強固なものにしていくために次の3点について伺います。

1点目として、災害被害時のトイレ問題を解消するために、災害用トイレ、マンホールトイレでございますが、マンホールトイレの設置についてでございます。

御承知のとおり、マンホールトイレは敷地内に下水道管を敷設し、マンホールのふたを一定間隔で設置し災害発生時にはその上にテントと簡易トイレを組み立て、使用後は直接下水道に流す仕組みであります。東日本大震災で津波に遭われた方々が暮らす避難所でも、トイレの汚染処理が十分できずに衛生状態が悪化し、感染症にかかる被害者もおられたとお聞きしており、このように大規模災害による避難所生活でも問題となるのが、トイレの衛生面での問題です。その点から本市においても、災害時の緊急避難所となる敷地内にマンホールトイレの設置のお考えがあるか伺う。

2点目として、大地震等の災害に備え、老朽化した橋や道路、さらには避難所となる公共施設等の修繕を加速させることが必要と考えますが、公共施設の防災強化についての市の考えを伺う。

3点目として、本市として災害に対する今後の取り組みや対策について伺います。

以上、3点よろしくお願いたします。

○議長（山根啓志君） 答弁を許します。

明岳市長。

○市長（明岳周作君） 平川議員さんから、本市の防災体制につきまして、3項目の御質問をいただきました。項目ごとにお答えをさせていただきます。